

第7回「男女の生活と意識に関する調査」報告、一部訂正のお知らせ

このたび本会機関紙「家族と健康」第731号、2月1日発行に掲載した第7回「男女の生活と意識に関する調査」記事（1面、4面、5面）の一部、「男性の性交開始年齢遅く」の記載内容に誤りがございました。下記の通り訂正し、心からお詫び申し上げます。なお、ホームページに掲載している記事は訂正されています。

男性の性交開始年齢遅く

表3 初交年齢累積率が下記の数字を超える年齢は？

(北村邦夫：「男女の生活と意識に関する調査」2002、2004、2006、2008、2010、2012、2014)

		30%	50%	70%
男 性	2002年	18歳	20歳	23歳
	2004年	18歳	19歳	23歳
	2006年	18歳	19歳	21歳
	2008年	18歳	19歳	21歳
	2010年	18歳	19歳	21歳
	2012年	18歳	19歳	21歳
	2014年	18歳	20歳	24歳
女 性	2002年	19歳	20歳	25歳
	2004年	18歳	20歳	22歳
	2006年	18歳	19歳	22歳
	2008年	18歳	19歳	21歳
	2010年	18歳	19歳	22歳
	2012年	18歳	19歳	22歳
	2014年	18歳	19歳	22歳

過去7回行われた調査について、初交年齢から累積経験率をみた（表3）。驚くことに第7回（2014年）調査において、男性回答者の場合、過去の調査結果と比べて19歳以上での累積経験率がすべて低い。2014年調査でみると15歳以下の累積経験率は僅かに男性が女性を上回っているが、16歳以上ではすべて女性が男性を超えていた。特に29歳では男女の間には6.8ポイントの差が出ている。累積経験率が30%を超えるのは、男性では18歳（女性18歳）、50%は男性20歳（女性19歳）、70%は24歳（女性22歳）であった。ちなみに、2008年（第4回）調査での50%超えは男性19歳（女性19歳）、70%超えは男性21歳（女性21歳）であったから、この6年間で70%超えについては男性で3歳、女性で1歳遅くなっている。

初交開始年齢に影響を及ぼしている要因を探った。初交開始年齢を遅くする要因として、結婚せずに子どもを持つことに「抵抗がある」、異性との関わり「面倒である」、子どもは欲しくない、中学生の頃の親との会話「話しをした」、喫煙経験がない、両親の離婚を経験していない、などが挙げられる。